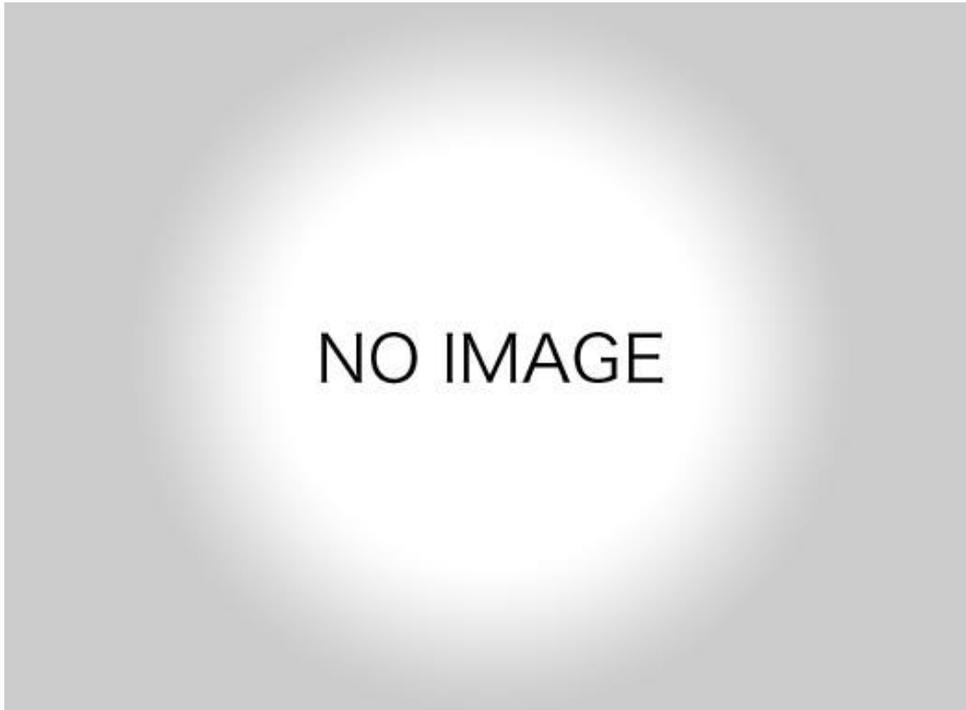


# カワネズミ

学名	Chimarrogale platycephala(Temminck)		
目名	食虫目		
目名学名	INSECTIVORA		
科名	トガリネズミ科		
科名学名	Soricidae		
カテゴリー	大分県：Ⅱ (VU)	環境省：地域個体群 (LP)	
	水産庁：保護すべき地域個体群(九州)		



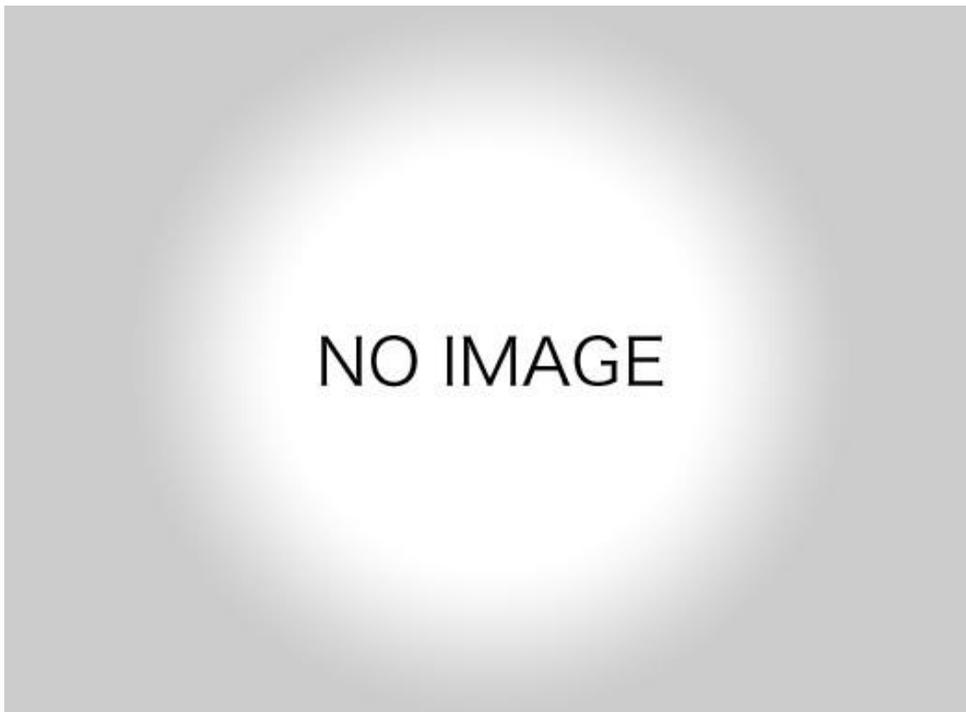
## 【選定理由】

山間地の溪流や中小河川の丘陵地内の流水域に対する、河川工事、護岸工事など、生息環境への人為干渉が徹底しつつあり、急激に個体数が減少している。

県内分布	下毛郡,日田郡,玖珠郡,大分郡,大野郡,直入郡,南海部郡
分布域	本州,四国,九州(長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島)
世界的分布	
生息環境	丘陵地帯から山間地の中小河川の森林におおわれた溪流付近。魚類やサワガニなどを採食している。
現 状	確認地域が限られており,最近では,確認されていた生息域での再確認が難しくなてきている。
備 考	日本固有種。日本哺乳類学会;保護すべき地域個体群(九州)

## ジネズミ(サイゴクジネズミ)

学名	Crocidura dsinezumi dsinezumi(Temminck)		
目名	食虫目		
目名学名	INSECTIVORA		
科名	トガリネズミ科		
科名学名	Soricidae		
カテゴリー	大分県：準(NT)	環境省：掲載なし	水産庁：



## [選定理由]

高規格農道、林道、作業用林道などの急速な開設に伴い、目撃個体数は急激に減少した各種森林公園、住宅地開発、ふるさと林道開設などが生息域一帯に集中的であることから、減少の恐れが高い。

県内分布	ほぼ県内全域に生息
分布域	北海道、本州、四国、九州(長崎・佐賀・福岡・熊本・大分・宮崎・鹿児島)、種子島、屋久島、トカラ列島(中之島)
世界的分布	韓国済州島
生息環境	海岸から低山帯の農耕地、河畔、林縁などに主として生息。本県では久住の草原域からも確認されている。
現 状	1980年代前半までは、標高300m程度の低山の林内、林縁で安定した生息状況が認められたが、1985年頃から森林域に対する開発利用で、個体群は急激に減少している。
備 考	

## ヒメヒミズ

学名	Dymecodon pilirostris True		
目名	食虫目		
目名学名	INSECTIVORA		
科名	モグラ科		
科名学名	Talpidae		
カテゴリー	大分県: I A (CR)	環境省: 掲載なし	水産庁:

NO IMAGE

## [選定理由]

標高の高い岩礫地に生息地は極限されている。くじゅう山系で記録がある場所は出水によりガレが発生し、一部改修工事などが行われたため、生息の可能性が低下している。個体数、個体群共にきわめて小さいため生息環境が競合するヒミズが侵入することによる絶滅の危険性もきわめて高い。1970年代のくじゅう山系の記録があるが、2006年に同所で調査を行ったが確認できていない。

県内分布	九重山域, 祖母・傾山域
分布域	本州, 四国, 九州(熊本・大分・宮崎)
世界的分布	
生息環境	標高の高い地域の岩礫地。
現 状	くじゅう山系および祖母・傾山域の2地域の極く限られた場所から生息が報告されているが、最近の確認情報は無い。特定調査の必要性がある種のひとつである。
備 考	日本固有属, 日本固有種。日本哺乳類学会; 保護すべき地域個体群(九州)

# キクガシラコウモリ

学名	Rhinolophus ferrumequinum(Schreber)		
目名	翼手目		
目名学名	CHIROPTERA		
科名	キクガシラコウモリ科		
科名学名	Rhinolophidae		
カテゴリー	大分県：準(NT)	環境省：掲載なし	水産庁：



## 【選定理由】

生息洞の消滅,洞内照明の積極化,洞内人為利用の推進などによる生息環境の悪化が懸念される。

県内分布	県内全域の自然洞,人工洞,暗渠
分布域	北海道,本州,四国,九州(長崎・佐賀・福岡・熊本・大分・宮崎・鹿児島),伊豆大島,三宅島,八丈島,佐渡島,対馬,五島列島,屋久島
世界的分布	ヨーロッパ,モロッコからインド北部,中国,朝鮮半島
生息環境	河川,平地,小丘陵,森林,草原などで採餌。営巣環境として岩裂,自然形成洞,人為造成洞,暗渠などを必要とする。
現状	県南地域では炭焼き窯の跡に生息している事例が多いが,窯の老朽化に伴う崩壊によって個体数が減少している。
備考	

## コキクガシラコウモリ

学名	Rhinolophus cornutus Temminck		
目名	翼手目		
目名学名	CHIROPTERA		
科名	キクガシラコウモリ科		
科名学名	Rhinolophidae		
カテゴリー	大分県：準(NT)	環境省：掲載なし	水産庁：



## [選定理由]

生息洞の消滅,洞内照明の積極化,洞内人為利用の推進などにより生息環境の悪化が懸念される。

県内分布	県内全域の自然洞,人工洞,暗渠
分布域	北海道,本州,四国,九州(長崎・佐賀・福岡・熊本・大分・宮崎・鹿児島),伊豆諸島,対馬,奄岐,福江島,屋久島,奄美諸島,沖永良部島
世界的分布	
生息環境	河川,小丘陵,森林,草原などで採餌。営巣環境として岩裂,自然形成洞,人為造成洞,暗渠などを必要とする。
現状	戦時中の防空壕が埋戻され,石灰洞は掘削され,鍾乳洞は人為的照明が取付られるなど生息環境の悪化が県下全域で進行中である。このため,従来の生息利用洞内でも個体数が減少している。
備考	日本固有種の可能性が高い(中国東部にも同一種が分布する疑いがある)。

# モモジロコウモリ

学名	Myotis macrodactylus(Temminck)		
目名	翼手目		
目名学名	CHIROPTERA		
科名	ヒナコウモリ科		
科名学名	Vespertilionidae		
カテゴリー	大分県：Ⅱ (VU)	環境省：掲載なし	水産庁：



## [選定理由]

これまで生息が確認されていた廃坑や鍾乳洞などでの再確認が極めて少なくなっており,一部生息地の消滅などの危険性が高くなったところがある。

県内分布	山国町(草本廃坑),本匠村(小半洞),宇目町(天神原洞)
分布域	北海道,本州,四国,九州(長崎・佐賀・福岡・熊本・大分・宮崎・鹿児島),佐渡島,対馬
世界的分布	シベリア東部,サハリン南部,朝鮮半島
生息環境	河川,丘陵地,森林などで採餌するが,森林の内部や樹冠部で確認されることが多い。営巣環境としては岩裂,自然形成洞,人為造成洞など。
現状	最近,草本廃坑ではほとんど目撃されなくなり,わずか小半洞で2~3個体目撃されるにとどまっている。
備考	

## ノレンコウモリ

学名	Myotis nattereri (Kuhl)		
目名	翼手目		
目名学名	CHIROPTERA		
科名	ヒナコウモリ科		
科名学名	Vespertilionidae		
カテゴリー	大分県：情報不足 (DD)	環境省：II (VU)	水産庁：

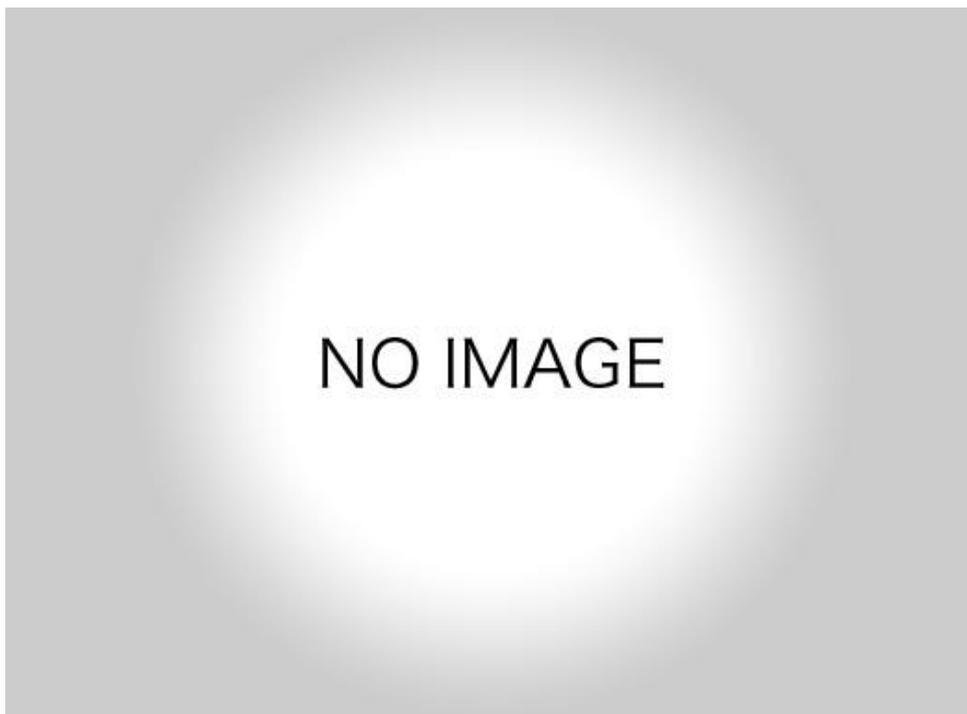


## [選定理由]

県内分布	野津原町
分布域	北海道,本州,四国,九州(熊本・大分・宮崎・鹿児島),佐渡島,対馬
世界的分布	ヨーロッパ西部,ウラル地方,イスラエル,アフリカ北部,アジア東部
生息環境	採餌はおもに森林の中の低層でおこなわれている。営巣環境は石灰洞に限らず,旧防空壕跡,浸蝕洞など。
現 状	大分市南部の洞窟は道路工事で消滅。本種に関しては2006年大分市野津原町で1件の確認情報があるのみで,当然のことながら,県内では出産,哺育のための洞窟は確認されていない。
備 考	情報は極めて極地的,散発的である。日本哺乳類学会;希少

## ヤマコウモリ

学名	Nyctalus aviator Thomas		
目名	翼手目		
目名学名	CHIROPTERA		
科名	ヒナコウモリ科		
科名学名	Vespertilionidae		
カテゴリー	大分県: 情報不足 (DD)	環境省: 準 (NT)	水産庁:



## [選定理由]

県内分布	ここ5年間新しい情報が入っていない
分布域	北海道,本州中部以北,対馬,壱岐島,福江島
世界的分布	中国東部,朝鮮半島
生息環境	比較的明るい大木のある森林に生息し,鬱蒼とした森林では観察されていない。繁殖には大木の樹洞を使用する。
現状	樹齢200年程度以上の自然林での目撃例が多かったが,生息する森林への人為干渉が進み,夜間照明などの影響も広範囲に広がり,個体数が減少する傾向が見受けられる。以前は,特定の神社林などに限って生息が認められていた。しかし,ここ数年生息に関する新しい情報は全くない。調査不足もあるが,現況での生息状況は不明である。
備考	日本哺乳類学会;希少

## ユビナガコウモリ

学名	Miniopterus fuliginosus (Hodgson)		
目名	翼手目		
目名学名	CHIROPTERA		
科名	ヒナコウモリ科		
科名学名	Vespertilionidae		
カテゴリー	大分県：準(NT)	環境省：掲載なし	水産庁：

## [選定理由]

これまでの生息地に加えて、大分市、国東地域、山国町など県内各地で生息が確認された。

県内分布	野津町,臼杵市,津久見市,宇目町, 左記に加え大分市, 国東地域, 山国町など
分布域	本州, 四国, 九州(長崎・佐賀・福岡・熊本・大分・宮崎・鹿児島), 佐渡島, 対馬
世界的分布	シベリア東部, 朝鮮半島, アフガニスタンからインド, 中国
生息環境	洞窟性のコウモリで, キクガシラコウモリなどのように, 暗渠には生息せず, 大きな洞窟を必要とする。河川や森林周辺が主な採食場所となる。
現 状	県内各地で確認されている。キクガシラコウモリのコロニーで同所的に生息している場合もある。
備 考	

# テングコウモリ

学名	Murina leucogaster( Milne-Edwards)		
目名	翼手目		
目名学名	CHIROPTERA		
科名	ヒナコウモリ科		
科名学名	Vespertilionidae		
カテゴリー	大分県： I B (EN)	環境省： II (VU)	水産庁：



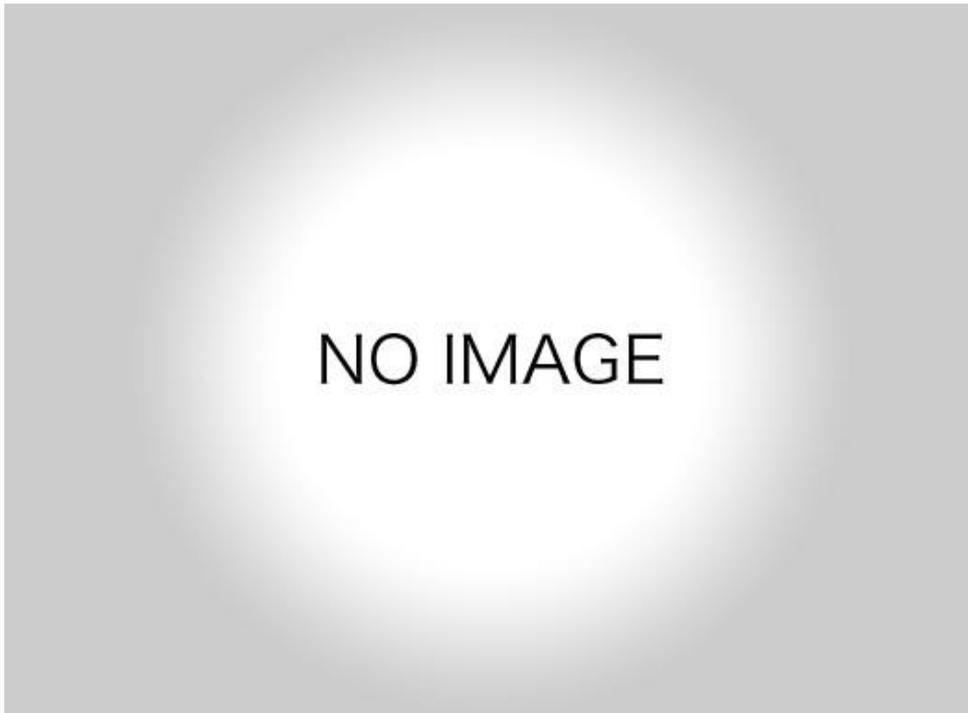
## 【選定理由】

野津原町と山国町の複数個所で確認されたが、個体数は少ない。樹洞のある樹林や越冬時の洞窟が必要である。

県内分布	大分市, 山国町
分布域	北海道, 本州, 四国, 九州 (福岡・宮崎・熊本・対馬)
世界的分布	インド北東部, 中国, シベリア東部
生息環境	大木の多い地域では樹洞を昼間の隠れ家にするが、洞穴内でもみつかるといふことが多い。
現 状	大分市と山国町の複数個所で確認されるが個体数は少ない。本種は本来樹洞性であるが、今回は洞窟で確認された。大木のある樹林を必要とするが現況では難しい。
備 考	

## ヒナコウモリ

学名	Vespertilio superans Thomas		
目名	翼手目		
目名学名	CHIROPTERA		
科名	ヒナコウモリ科		
科名学名	Vespertilionidae		
カテゴリー	大分県：情報不足 (DD)	環境省：掲載なし	水産庁：



## [選定理由]

県内分布	野津原町
分布域	北海道, 本州 (中国地方を除く), 九州 (熊本)
世界的分布	シベリア東部, 中国東部, 台湾
生息環境	大木の多い地域では一年中集団で樹洞を昼間の隠れ家にするが, 家屋や海蝕洞なども繁殖の場として利用. 冬眠時そこから離れるが, 冬眠場所については知られていない.
現 状	大分市野津原町において2006年確認された。本県の確認例はこの1例のみで, 本種の詳細な生息状況は不明。
備 考	

## ニホンザル(ホンドザル)

学名	Macaca fuscata fuscata (Blyth)		
目名	霊長目		
目名学名	PRIMATES		
科名	オナガザル科		
科名学名	Cercopithecidae		
カテゴリー	大分県：地域個体群(LP)	環境省：掲載なし	水産庁：

NO IMAGE

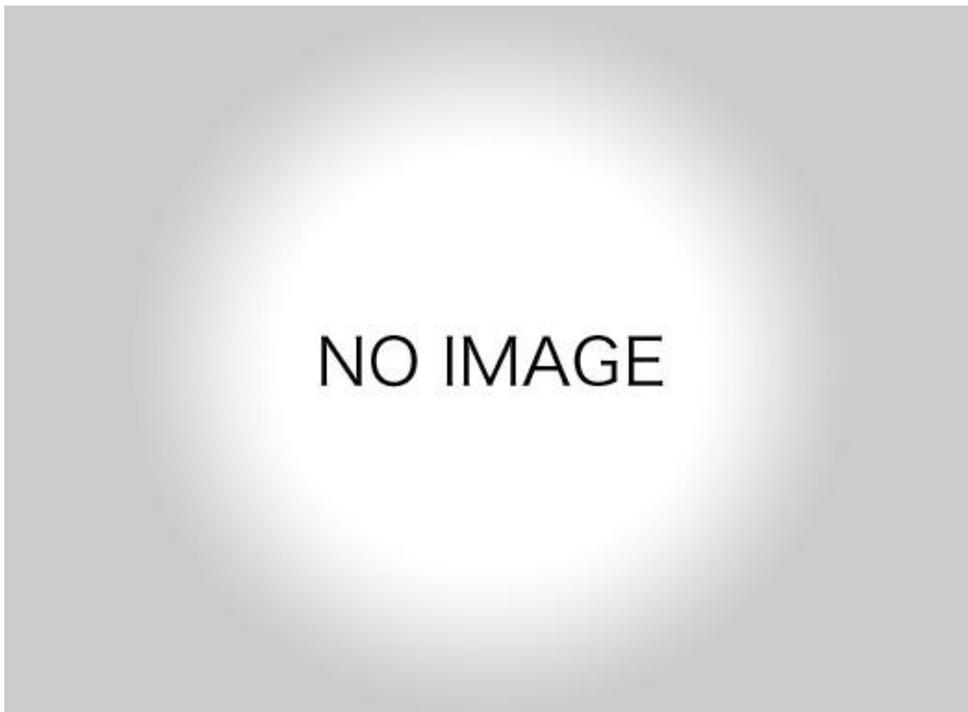
## 【選定理由】

大分市, 別府市, 臼杵市, 由布市, 佐伯市, 中津市を除く地域. 農林業被害が発生しているが左記の地域以外では生息域の分断, 縮小, 変動などが発生し状況は変わっていない.

県内分布	県内全域
分布域	本州, 四国, 九州(長崎・佐賀・福岡・熊本・大分・宮崎・鹿児島), 金華山島, 淡路島, 小豆島, 屋久島
世界的分布	日本固有種
生息環境	海岸域から山地まで. 主として, 常緑広葉樹林, 落葉広葉樹林に生息.
現状	大分県内のニホンザル個体群は, 高崎山地域を除くと, 個体群規模は20~30個体程度と小さく, しかも地域的には分断した状態で, 一部を除き農業被害も比較的軽度であったが, 最近では, 県南一帯, 臼杵市, 野津町などでは被害が増大している. しかし一方では道路整備, 林道の開発や改修などの他, 中間山地の土地利用の変化から個体群の分断化, 縮小が進み個体数が少なくなっている地域が見られる. 対象地域: 日
備考	日本固有種. 本土に生息する種をホンドザル, 屋久島に生息する種をヤクシマザルとして別亜種扱いする.

## ニホンモモンガ

学名	Pteromys momonga Temminck		
目名	齧歯目		
目名学名	RODENTIA		
科名	リス科		
科名学名	Sciuridae		
カテゴリー	大分県: 情報不足 (DD)	環境省: 掲載なし	水産庁:



## [選定理由]

県内分布	
分布域	本州, 四国, 九州
世界的分布	
生息環境	山地帯から亜高山帯の森林に生息する。夜行性で、樹上で活動し、ムササビのように滑空する。食性はほぼ完全な植物食で、樹の葉、芽、樹皮、種子、果実、キノコなどを採食する。
現状	最近、熊本・宮崎の両県で生息が確認され、大分県内での生息も有望視されるが、現況では古い聞き取り情報に限られており、山国町、緒方町、本匠村、直川村などで、林業家による目撃例を聞知しているものの、いずれも未確認である。
備考	IUCN; 希少種。日本固有種。日本哺乳類学会; 保護すべき地域個体群(九州)

## ムササビ

学名	Petaurista leucogenys(Temminck)		
目名	齧歯目		
目名学名	RODENTIA		
科名	リス科		
科名学名	Sciuridae		
カテゴリー	大分県：地域個体群(LP)	環境省：掲載なし	水産庁：



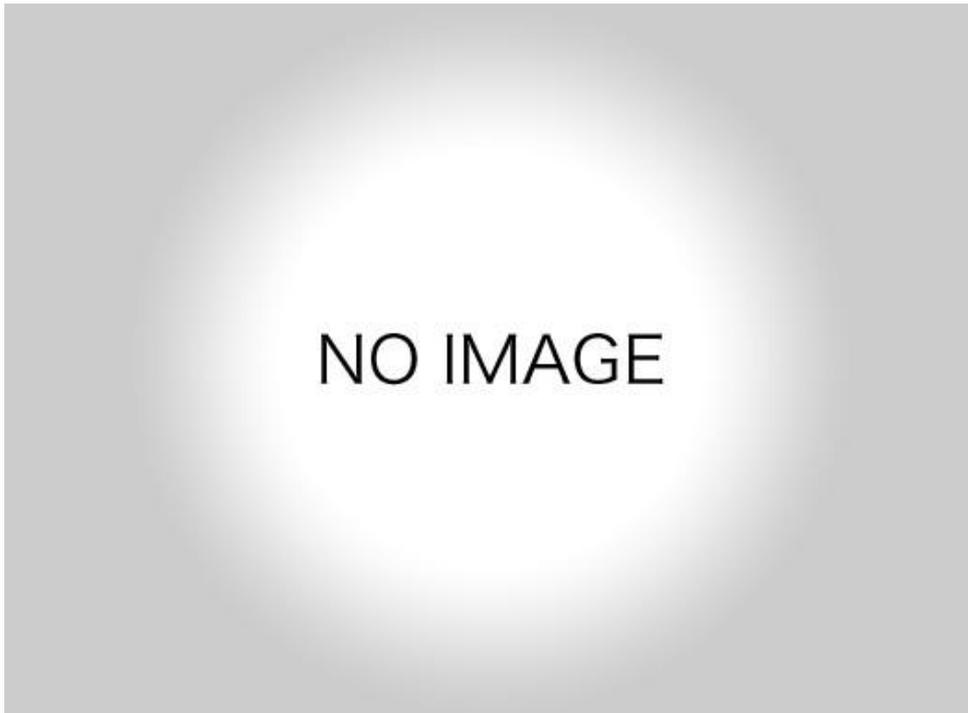
## [選定理由]

特定の神社林,伐採された森林の孤島状残存林などで小規模個体群化し,地域特定の傾向顕著である。

県内分布	県内全域
分布域	本州,四国,九州(長崎・佐賀・福岡・大分・熊本・宮崎・鹿児島)
世界的分布	中国(甘肅,四川,雲南省)
生息環境	低地から亜高山帯の森林に生息する。夜行性で,樹上で活動し,食性はほぼ完全な植物食で樹の葉,芽,樹皮,種子などを採食する。
現状	大山町烏宿神社では森林の孤島化。弥生町愛宕神社では森林の減少と通行車両による影響。佐伯市城山では市街地直近のため夜間照明や人の出入りなどの人為圧を理由に。この他,国東町文殊仙寺,竹田市宮砥八幡,臼杵市東神野熊野神社,宇目町真弓天満宮及び木浦小学校でも樹林の小規模化や人為干渉などを理由に個体群の孤立小規模化が進行している。
備考	生息場所である森林自体の消滅や小規模化が発生していることに加え,従来の営巣場所である樹洞,神社,民家の屋根裏などに対する人為干渉が激しく,生息可能な場所が急減している。特に,神社では改修に伴う外壁の金属建材の普及により生息場所を奪われている。

## ヤマネ

学名	Glirulus japonicus (Schinz)		
目名	齧歯目		
目名学名	RODENTIA		
科名	ヤマネ科		
科名学名	Gliridae		
カテゴリー	大分県: I A (CR)	環境省: 準 (NT)	水産庁:



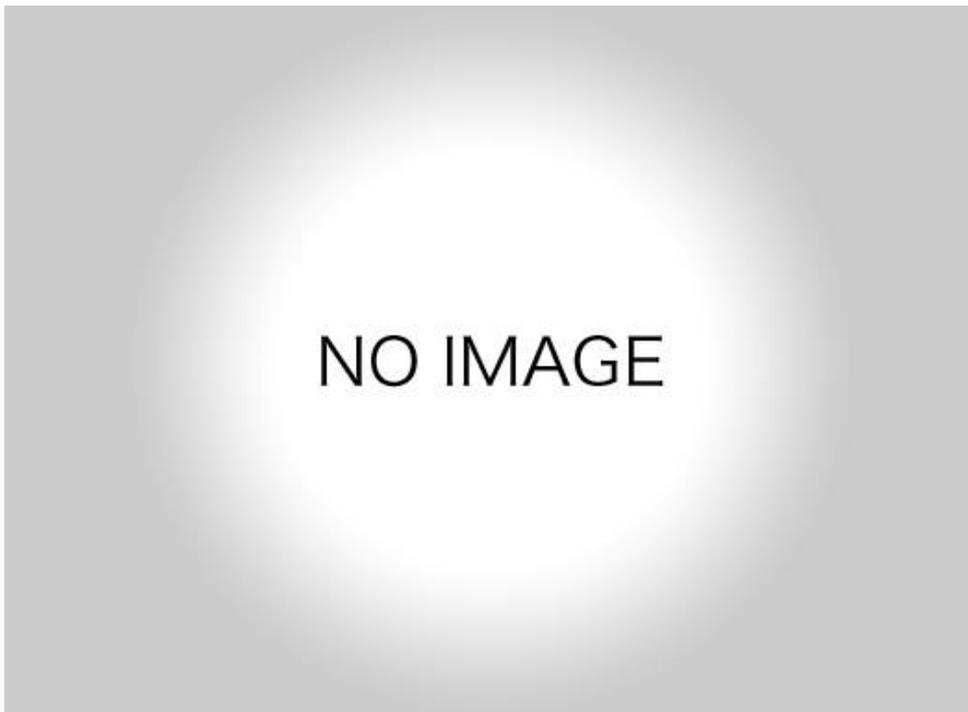
## [選定理由]

確認例が少なく、全体として生息する自然林に対する人為干渉が進み、生息条件が劣化。個体数は減少しており、絶滅の危険性が極めて高い。

県内分布	由布・鶴見山城, 九重山城, 祖母・傾山城
分布域	本州, 四国, 九州(長崎・佐賀・大分・熊本・宮崎)
世界的分布	
生息環境	山地帯から亜高山帯の森林に生息する。夜行性で、樹上で活動し、主に果実、種子を採食する。
現状	夜行性のため確認例は少ない。県下では、九重、庄内、日田などで新たに確認されている。
備考	天然記念物, IUCN; 希少種。日本固有属, 日本固有種。日本哺乳類学会; 危急

## スミスネズミ

学名	Eothenomys smithii (Thomas)		
目名	齧歯目		
目名学名	RODENTIA		
科名	ネズミ科		
科名学名	Muridae		
カテゴリー	大分県：Ⅱ (VU)	環境省：掲載なし	水産庁：



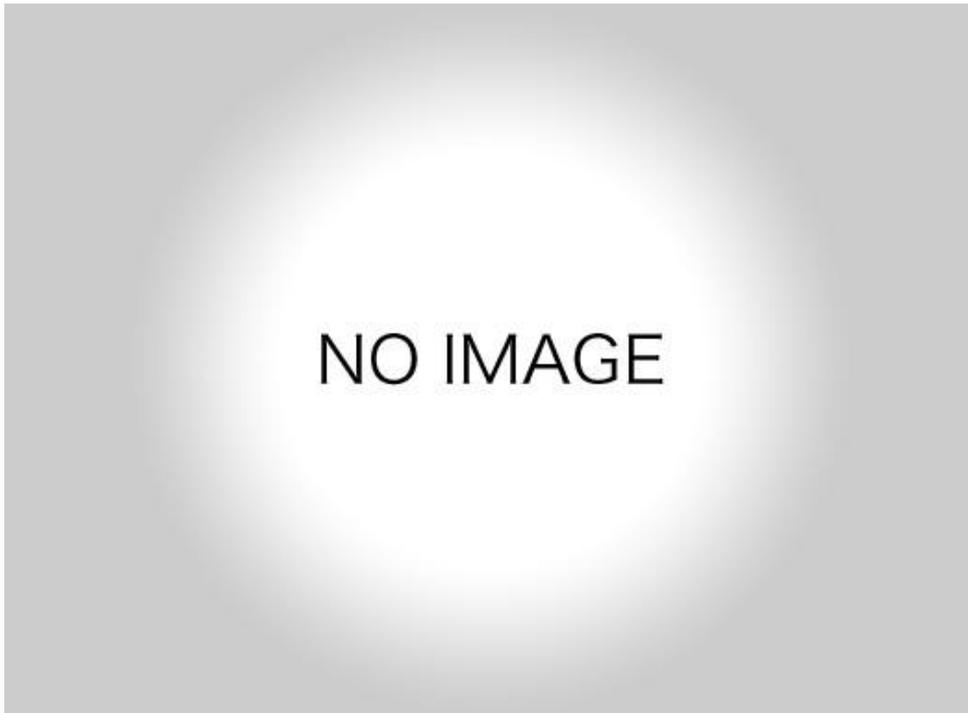
## [選定理由]

生息確認例が少なく、地域も限定されている。生息地の減少が懸念される。

県内分布	湯布院町,九重町,久住町,野津原町
分布域	本州(新潟,福島以南),四国,九州(長崎・佐賀・福岡・大分・熊本・宮崎・鹿児島),隠岐島後
世界的分布	
生息環境	山塊につながった低地から高山帯の森林に生息。植林地内にはあまり生息しない。湿潤な環境を好み,植物の緑葉部,種実のデンプンを採食する。
現状	生息確認地が偏在しており,しかも,確認例があまり多くない状況である。個体群として安定しているのは由布岳山麓,標高700~900m付近。この生息地については,将来共に人為干渉は予想されないが,個体群保全のため選定した。
備考	日本固有種。日本哺乳類学会;希少

## ハタネズミ

学名	Microtus montebelli(Milne-Edwards)		
目名	齧歯目		
目名学名	RODENTIA		
科名	ネズミ科		
科名学名	Muridae		
カテゴリー	大分県：準(NT)	環境省：掲載なし	水産庁：



## [選定理由]

1980年代から確認例が極端に少なくなっている。理由は不明だが個体数の減少が懸念される。

県内分布	県内全域
分布域	本州,九州(長崎・佐賀・福岡・大分・熊本・宮崎・鹿児島),佐渡島,能登島
世界的分布	
生息環境	畑,水田の畦,河川敷など平野部に広く分布し,ときには高山帯にも見られる。個体数の変動が著しく,ときおり大発生し,農作物被害を起こすこともある。
現状	低山丘陵地帯,農耕地周辺,牧草地などに生息するが,1980年頃からトラッピング調査などによっても稀にしか確認できない状態である。
備考	日本固有種

# カヤネズミ

学名	Micromys minutus (Pallas)		
目名	齧歯目		
目名学名	RODENTIA		
科名	ネズミ科		
科名学名	Muridae		
カテゴリー	大分県：準(NT)	環境省：掲載なし	水産庁：



## 【選定理由】

1970年代初頭頃から急激に減少。2000年現在,少数の特定地点にだけ生息。河川改修などによる生息環境の悪化が懸念される。

県内分布	東国東郡,宇佐郡,日田市,日田郡,玖珠郡,大分郡,直入郡,竹田市,大野郡,佐伯市,蒲江町
分布域	本州(福島県・新潟県以南)四国,九州(長崎・佐賀・福岡・大分・熊本・宮崎・鹿児島),隠岐諸島,淡路島,豊島,因島,対馬,天草下島,福江島
世界的分布	朝鮮半島,中国,台湾,アッサム,ミャンマー,インドシナ北部,シベリア,コーカサス北部,
生息環境	通常,低地の草地・水田,畑・休耕地,沼沢地などのイネ科植物が繁茂した水気のあるところに多い。
現状	河川敷のヨシ,ツルヨシ群落,ススキ草原,伐開地の草原などの他,水田の刈り取り前の稲田などに生息するが,個体数は極端に減少している。
備考	全国的にも分布域,個体数共に減少傾向にある。日本哺乳類学会;不能

## ツキノワグマ

学名	Selenarctos thibetanus (Cuvier)		
目名	食肉目		
目名学名	CARNIVORA		
科名	クマ科		
科名学名	Ursidae		
カテゴリー	大分県：野生絶滅(EW)	環境省：地域個体群(LP)	水産庁：

NO IMAGE

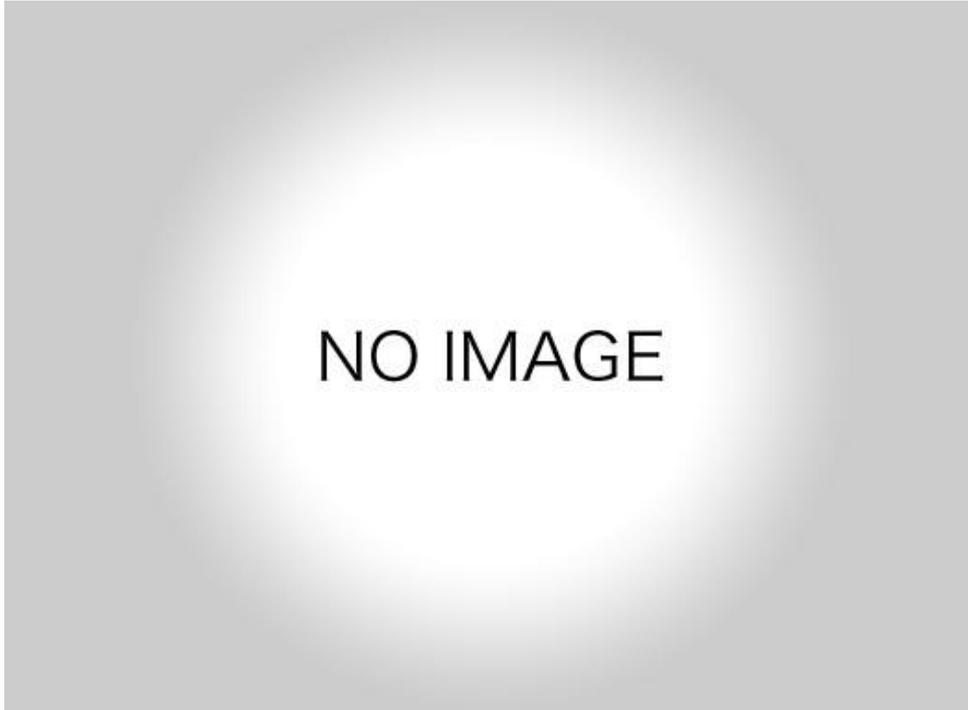
## [選定理由]

1987年11月24日,笠松山北麓で1個体射殺されたが,野生個体であるかどうかについては論議がある。その後,目撃,皮剥ぎ,雪上の足跡,体毛などの情報が寄せられてはいるが現在のところ生息するという確実な証拠はない。

県内分布	祖母・傾山系(1943年の記録)
分布域	本州,四国,九州(大分)
世界的分布	ロシア極東地域,中国,朝鮮半島,台湾,インドシナ半島北部
生息環境	落葉広葉樹林帯で森林規模の広域な空間を必要とする。溪谷林やササ類におおわれた林内,伐採跡地なども利用する。
現状	野生種は絶滅したものと考えられる。
備考	目撃情報は多いが,確定的ではない。野生個体であるか,明らかに本種であるか信憑性に欠ける。日本哺乳類学会;保護すべき地域個体群(九州)

# ニホンイタチ

学名	Mustela itatsi Temminck		
目名	食肉目		
目名学名	CARNIVORA		
科名	イタチ科		
科名学名	Mustelidae		
カテゴリー	大分県：準(NT)	環境省：掲載なし	水産庁：



## [選定理由]

1960年代以降チョウセンイタチの侵入により平野部ではほとんどみられない。チョウセンイタチとの競合により、一部の地域では消滅が懸念される。

県内分布	庄内町,野津原町,久住町,九重町,竹田市,緒方町
分布域	北海道,本州,四国,九州(長崎・佐賀・福岡・熊本・大分・宮崎・鹿児島)
世界的分布	
生息環境	平地から亜高山帯まで広く生息する。食性の幅が広く農耕地,草原,河川,樹林域など幅広い環境に適応できる。
現状	県内で,現在確実に生息が確認されている地点は上記地域の山間部および溪流部である。チョウセンイタチの侵入が認められない黒岳山城を除いては,混棲関係にあるがその構造は明かではない。雄は狩猟獣となっているが,現状ではこれを禁止する必要がある。
備考	日本固有種

# ニホンカモシカ

学名	Capricornis crispus (Temminck)		
目名	偶蹄目		
目名学名	ARTIODACTYLA		
科名	ウシ科		
科名学名	Bovidae		
カテゴリー	大分県：Ⅱ (VU)	環境省：地域個体群 (LP)	水産庁：



## [選定理由]

祖母・傾山系に安定して生息するが、単純一斉造林(スギ・ヒノキ植林)による壮齢林は生息分布域とはならないため大分県下では生息地は限定されている。

県内分布	祖母・傾山系
分布域	本州, 四国, 九州(熊本・大分・宮崎)
世界的分布	
生息環境	低山帯から亜高山帯にかけてのブナ, ミズナラなどが優占する落葉広葉樹林, 針広混交林などに主として生息。各種木本類の葉, 広葉草本, ササ類などを選択的に菜食する。
現 状	県下では祖母・傾山系の標高およそ400m以上の広葉樹林, およびその二次林, 植栽幼齢林に生息。広葉樹やササ類の葉や冬芽などの他, 崖地のケイビランに食痕がめだつ。自然林の伐採やスギ, ヒノキの植林地化による影響をはじめ, 密猟が生存に悪影響を及ぼしている。
備 考	特別天然記念物, 日本固有種。日本哺乳類学会; 保護すべき地域個体群(九州)